

# 小学校 社会科 部会

部会長名 真木小学校 校長 高瀬 光一  
実践者名 香春小学校 教諭 山本 公平

## 1 研究主題及び副題

社会を形成していく生き方を創りつづける社会科学習  
～ 資料を活用し自分の言葉で表現する説明的活動を生かした授業の工夫 ～

## 2 主題設定の理由

### (1) 社会的な背景から

長引く不景気、東日本大震災による大きな被害、そして様々な要因による社会の変化等これまでの常識や価値観がそのまま通用しない時代になっている。このことを受け、児童一人ひとりが「自分にできること」を考えたり、「自分たちが主体となって社会をつくる」と意識したりすることが望まれている。これからの社会を生き抜くためには、正しい知識を持つと同時に、自ら考え、判断する力を育成すること、そして共に社会を形成するという意識を持った人間の育成が重要と考えた。

### (2) 新学習指導要領改訂の趣旨から

今回の新学習指導要領の改正の視点として、「生きる力の育成」、「思考力・判断力・表現力の育成」、そのための言語活動の充実など、いくつかの視点が挙げられている。これはOECDのPISA調査などの中で我が国の児童の能力が他の国と比べて、深く思考し表現する問題に課題があるとされる結果から、これから身につけさせていきたい能力として示されているものである。これらのことから課題解決のために適切に資料を取捨選択し、それを活用して、自らの考えを表現していくことは、思考力・判断力を育成すると同時に、言語に関する能力を高めることが出来るという点からも大変意義深いと考える。

### (3) 児童の実態から

本学級の児童は、学習において自分の考えが持てなかったり、考えが持てても十分にまわりの児童に説明が出来なかったりで悩んでいることも見られる。このことは、全国学力・学習状況調査の「学校の授業で自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりするのは難しいですか」という問いに対して7割近くの児童が難しいと感じている結果からも伺われる。自分の考えを相手に説明するためには「どのように言えばよいのか」「どんなものを使って説明すればよいのか」がわからないことが明らかになってきた。

また、相手の言うことをそのまま受け入れてしまったり、相手に対して別の考えを言うことを躊躇してしまう面が見られる。そのため、様々な情報を集め、それらを根拠にして自らの考えを生みだ出したり、交流活動を通して、自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聴いたりしながら、新たな考えや疑問を生み出す活動は、大変意義深いと考える。

以上のことから、社会科学習の中で表現活動を仕組み、相手に論理的に説明できる力を高める学習指導の在り方を探っていくことは、意義深いことであると考える。

## 3 主題の意味

### (1) 社会を形成していくとは

社会を形成していくこととは、学習指導要領にある「日本人としての自覚を持って国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能なしゃかいの実現を目指すなど、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎をも含むものである」と捉える。これは、「公民的資

質」という言葉にも置き換えられる。この公民的資質の基礎を養うことは社会科の最大の目標であり、その結果社会の形成に参画する資質や能力が身についていくと考える。

(2) 資料を活用し自分の言葉で表現する説明的活動を通してとは

「資料」とは、問題を解決するために、その結論を導くための根拠となるものである。グラフや表、地図、図、写真、実物など、様々なものが考えられる。児童自らが見つけだす場合もあるし、教師から与える場合もある。児童が自ら発見する場合でも、教師が与える場合でも、ただ量を求めるのみではなく、見通しを持って探さねばならない。

「資料を活用し」とは、学習問題の解決に向けて、それらの資料を、見通しを持って、様々な角度から効果的に集積したり、問題解決の根拠となるものを選択したり、分析したりすることである。

「自分の言葉で表現する」とは、自分で調べたり、自分が知った事実や、課題解決に向けて、自分なりに分析したこと、思考したことを、文章にまとめたり、図・グラフなどに表したりして伝えることである。

「説明的活動」とは、社会科における説明的活動とは、資料活用や観察・調査を通して必要な情報を入手し、それらを比較・関連づけ・総合しながら再構成し、社会的事象の意味などを解釈したり事象の特色や事象間の関連をまとめたりして、作り上げた考えを論理的に分かりやすく説明する活動と捉える。

なお、説明方法として下記の3活動と捉える。

<帰納的な説明>

- ・幾つかの具体的な例に共通する一般的な事柄を見出していく説明

<類推的な説明>

- ・既習の内容との類以性に着目して新しい事柄を見出す説明

<演繹的な説明>

- ・すでに正しいことが明らかになっている事柄を基にして別の新しい事柄が正しいことを説明

#### 4 研究の目標

社会を形成していく確かな力を育成するための具体的方策として、課題を解決するために、適切に資料を選択活用し、それらを基に自分なりの方法で効果的に表現し、説明できるための支援のあり方を探っていく。

#### 5 研究の仮説

社会科学学習指導において、下記のような方策を取り入れれば、子どもの学習意欲は高まり、社会を形成していく生き方の基盤を養うことができるであろう。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>① 思考を深めるための学習課題の設定</li><li>② 説明的活動の効果的な位置づけ</li><li>③ 学習したことの深まりが実感できる振り返り</li></ul> |
|--|

#### 6 研究の計画（授業の計画）

(1) 単元名 「身近な暮らしと政治」

(2) 単元の目標及び指導計画

〔目標〕

- 公共施設の建設や政治の働きに関心を持ち、進んで調べることができる。  
(関心・意欲・態度)
- 地方公共団体や国の政治はわたしたちの願いと大きく関わりながら進められていることについて考え、文章や図で表現することができる。  
(思考・判断・表現)
- 各種資料を調べる活動を通して、政治の働きや税金の役割について調べることができる。  
(技能)
- 政治のしくみと働き、選挙や租税の役割などについて理解できる。  
(知識・理解)

〔指導計画〕(総時数 6 時間)

主 な 学 習 活 動	時	評 価 規 準
1 香春町にどんな公共施設ができるのかを考え、学習計画を立てる。	1	○公共施設の建設に関心を持ち、意欲的に調べることができたか。 (関心・意欲・態度)
2 世田谷区の子育て支援事業の取り組みを通して、住民の願いが実現するためにはどんな人たち(機関)がどんな関わりをしているのか考える。	1	○世田谷区の子育て支援の様子から、住民の願いとのつながりを考え、表現することができる。 (思考・判断・表現)
3 だれもが住みやすいまちにするために、どのようなまちづくりが行われているか考える。	1	○住民と地方公共団体が協力して住みよいまちづくりが行われていることを理解することができる。 (知識・理解)
4 住民の願いと政治はどのようなしくみでつながっているかを考える。	1	○地方公共団体の取り組みには、議会を通して住民の意思が反映されていることをとらえ、適切に表現することができる。 (思考・判断・表現)
5 税金にはどんなものがあり、どんな役割を果たしているのかを考える。	1	○税金の種類や役割について理解することができる。 (知識・理解)
6 税金のない社会を考えることで、税金の大切さに気づく。	1 本時	○税金は国民生活の安定と向上を図るために大切なはたらきをしていることを考え、適切に表現することができる。 (思考・判断・表現)

7 指導の実際

(1) 主眼

住民のねがいをかなえる政治のはたらきの中で、税金が果たしている役割について

て自分なりの考えがもて、それを自分の言葉で表現することができる。

(2) 授業仮説

本時において、税金のない世の中になるとどうなるかという考えを交流させたり、税金のない世界を体験させたりすることで、それぞれが考えていた意見が深まり、自分の考えを意欲的、効果的に表現する力を高めることができるであろうと考える。

(3) 準備

教師：収入と税金による支出の表、

児童：教科書、ノート、ワークシート

(4) 展開

階	学 習 活 動	○具体的な指導・支援 ◎評価の視点
導 入	<p>1 前時学習を想起し、本時のめあてを確認する。</p>	<p>○ある事例をもとに税金が必要か否かを考えさせる。 ※Aさん (28歳独身) 年収366万 税金 年40万程度 ○どちらの立場かをはっきりさせる。</p>
展	<p>2 税金がないとどうなるかを考えて書く。</p> <p>3 考えをグループで交流する。</p> <p>--- 〈予想される児童の反応〉 -----</p> <p>(よい点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収入が増える。</li> <li>・生活が楽になる。</li> <li>・税金を払わないでいいのでうれしい。</li> </ul> <p>(困る点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のものや学校生活に関わるものが使えない。</li> <li>・病院や福祉のことで困ることがある。</li> <li>・税金でいろいろなものを買っているからないといけない。</li> </ul> <p>4 全体交流をし、考えをまとめる。</p>	<p>○個人の考えを自由に書かせる。 ○税金がないことのメリット、デメリット両方の立場から書かせる。 ○両方の立場から書けない子にはどちらかだけでもいいようにする。</p> <p>○グループでの交流は意見・考え、その理由という発表の仕方で行わせる。 ○学習リーダーを中心に発表させる。</p> <p>○メリット、デメリットのどちらかに意見がまとめられる場合はまとめる。まとめられない場合は、どちらの意見も発表するようにする。</p>
開	<p>--- もし税金がなければ・・・ -----</p> <p>○交通事故にあった (救急車)・救急車が来ない・お金がかかる</p>	<p>○税金のない世界を体験するために、いろいろな状況をシミュレーションし、どんな社会になるかを考えさせる。</p> <p>○前時の学習をふり返らせたり、必要な資料を利用させたりしながら考えを持たせる。</p>

	(警察)・お金がかかる (病院)・治療費が高くなる ○学校に来た (教科書)・無料で配布されない (授業料)・月謝が必要	
ま と め る	5 本時の学習のまとめをする。	
	〈まとめ〉 ○ わたしたちの暮らしには税金が大きく関わっており、大切な役割を果たしている。	

## 8 授業の考察

授業の導入段階で、前時のふり返りもかね、平均的（28歳独身・インターネット資料より）な収入と税金による支出の表を提示した。前時では税金がどんなものに使われているか、またどんな税金があるかを学習しており、それらを具体的に理解させるために年収の約10%強が税金として使われていることを知らせていった。この資料の提示は子どもたちに税金が必要か否かを考えさせるための意識を持たせることにつながったと考える。そこで税金が必要か否かの立場をはっきりさせ、その考えをそれぞれの立場で書かせるようにした。

次に考えをつくり、交流する段階ではまず個人で考えをまとめる時間を設定した。ここでは前時に学習した税金の使い道や実際の自分たちの生活などからそのメリットやデメリットを考えさせた。この場面では関連づけや比較、推測などを行うことで思考が活発になり、そのことから自分なりの考えを表現することができると思った。実際に個人の考えを書く場面では、前時までの学習内容を生かし、社会保障や教育費などで生活が困るという意見や税金の支出がないことから生活が楽になるという考えをつくり出し、書くことができた子どもたちが多数いた。

さらに、その考えを深めたり、新たな考え方を見いだしたりするためにグループでの交流活動を行った。グループでの交流では自分の意見を説明し、他の意見を聞く中で税金が必要か否かを決定させ、その根拠を発表させるようにしていった。自分たちの考えを持って交流活動に参加することで、それぞれ自分たちの考えをしっかりと説明することはできていた。これは個人での思考の時間を作っていた成果だと考えられる。また、グループでの交流も活発に行えており、それぞれが同じ方向で話し合いができていた結果だと思う。その後、グループの意見を全体に発表していった。どのグループもどちらかの（必要or不必要）意見に決定することはできなかったがそれぞれの根拠となる意見を発表することはできていた。

その後、子どもたちにより具体的に税金をイメージさせるために「税金のない社会」を体験する場を設定した。税金がなければ生活費が増えるという意見があったので、それを利用し、増えた分自分たちの小遣いも増えるという設定をつくった。それと同時に「交通事故」にあった場合や「病院」に行った場合、「学校」に行った場合など税金が使われているところで税金がないとどうなるかというのを全員で確認していった。

子どもたちは事故にあえば「救急車」や「警察」を呼ぶとすぐに答えたが、その際に「税金がないならそういう仕事をする人はいないのでは」という意見が出て税金のない社会で

は改めて社会保障や福祉などで困ることがあるということを実感したようだ。また、教師側から「警察や救急を呼べば費用が必要」などいった話しをすることで税金の必要性が高まっていったようである。ここでも子どもたちはいろいろなケースを推測したり、比較したりしながら自分たちの思考をさらに深めていったと考えられる。

これらのことから、テーマが明確で全体でそのことについて深め合う活動を仕組むことで、思考力が高まり、表現する意欲や能力が高まったと考える。



税金のない世の中になると・・・

・年がたかたか減ることはなくなるけど  
 今生活できている人たちの暮らしにふたんが  
 かかると思う。 ・負担がかかる。  
 ・救助・防災では困る。  
 ・税金と利用している(給料)  
 ・福祉もできない。  
 ・生活に苦しむ人が減る。  
 ・生活費はよゆ。  
 ・給料が増える。  
 ・安くなる。

比較して  
 考え

税金は必要 or 必要でない

税金がなくなれば生活に苦しむ人がいなくなるかも  
 しれないけど税金があるから生活できている人も  
 いるから税金は必要

↓  
 結論を  
 出して  
 いる

写真1 交流活動の様子

## 9 成果と今後の課題

〈成果〉

○税金についての学習を2時間扱いにし、はじめに税金の種類や使われ方などを知識として習得させ、次にそのことを活用させ考えをつくらせたことで思考を深めるような活動にすることができた。

○関連づけたり、推測したり、比較したりする思考の要素を活用することで、自分の考えをしっかりと持つことができ、その結果児童相互で交流し、考えあう姿が見られた。

○交流活動を仕組むことによって相手意識を高めるとともに、考えを深めることもできた。

○全体交流ではなかなか意見を積極的に出せない児童も、グループなどの少人数では意欲的に発言もでき、表現することに対する意識を高めることができた。

〈課題〉

●税金の学習以外の学習ではなかなか子どもたちの考えが深まる課題を持たせることができなかった。教材研究が不十分であった。もう少しいろいろな資料を準備し、取り組む必要がある。

●表現方法が音声表現に偏りがちになったので、もっと様々な方法での交流活動を行う必要があった。また、単元全体では十分に交流活動が持っていない。計画的に説明活動を位置づけることを考えなければならない。

●どの学習においてもふり返りや評価が十分にできていない。どんな評価をするか、それをどう分析するかなど再度検討しなければならない。

●社会事象に関する知識が十分にできていない。もっといろいろな場面で知識を身につけさせる必要性を感じた。

◇ 参考文献

- ・ 小学校学習指導要領解説 社会編 (文部科学省)
- ・ 言語力を育てる授業づくり 梶田叡一・甲斐睦朗編著 (図書文化)
- ・ 小学校新学習指導要領の展開 社会編 (明治図書)
- ・ 論理的な思考力・表現力の育て方 八和田清秀 (明治図書)
- ・ くらしをささえる税金 平成24年度版福岡県版 (福岡県租税教育推進協議会)